

2019年度(令和元年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 63	福山市立明王台小学校
	最終更新日	2020年(令和2年)2月5日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。目標が達成できていないものについては、取組の進捗状況を細かく把握し、課題克服に向けてPDCAサイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 全国学力・学習状況調査の結果、小学校は県平均を概ね上回り、中学校は県平均程度となっている。また、校区共通で取り組んだことで、「あいさつ」、「地域行事参加」などの意欲は向上してきている。睡眠時間、学習時間の確保がメディアの使い方と併せて課題となっている。	育成する力 21世紀型“スキル&倫理観” めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力、他者とかわる力、社会貢献力、自己形成能力 じっくり考え、はっきり表現し、くり返し粘り強く挑戦する児童・生徒 (J) (H) (K) ・基本的生活習慣や家庭学習の目安を示した校区スタンダードの取組 ・毎月15日にあいさつデーとして校区合同挨拶運動の取組 ・中学校のテスト期間に合わせて家庭学習頑張り週間とノーメディアデーの取組 ・合同行事・乗り入れ授業・「総合的な学習の時間」発表会の取組
--	--	---	---

III 自校

ミッション
 夢を持ち その夢を実現することを通して 社会に貢献できる 児童の育成

学校教育目標
 自ら学び 豊かな心で たくましく生きる子どもの育成

現状

〈児童生徒〉
 ・標準学力調査では、全国平均を上回った。
 ・学校のルールを守る児童が増加し規範意識が高まった。
 ・「無言掃除」「地域行事への参加」等、主体的に考え行動できる力を高めていく必要がある。

〈授業〉
 ・「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の割合(「基礎・基本」定着状況調査アンケート)が、73.9%(県67.9%)である。今後も自分の考えをまとめて書くこと、考えを練り合い深めていくことに継続して取り組んでいく必要がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	主体的に学ぶ力	思考力	表現力	他者と関わる力
めざす子ども像	生活体験や既習事項を基に、調べたり考えたりするなど、継続して新たな課題を見つけようとしている。	より良い解決に向け、目的や意図に心理論理的に話し合うこととしている。	必要な情報を整理し、論理的に話したり書いたりするなどして、自分の考えを表現しようとしている。	初めて出会う考えにも耳を傾け、目標達成に向けて、共感しながら互いに学び合おうとしている。
研究	教科等 社会科 外国語活動	ともに考え 学び合う授業の創造 ～J(じっくり考える)H(はっきり表現する)K(くり返し挑戦する)を踏まえて～		
めざす授業の姿	① 主体的な学びになるよう、板書計画を立て授業の工夫を行っている。☑ ② 自分の考えをまとめ書く時間や考えたことを練り合う場面を確保し、手立てが設定されている。☑ ③ グループやペア等の活動を通して他者と関わり合う場面が設定されている。☑			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立明王台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	力 _レ セ _セ 達成 _セ 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	力 _レ セ _セ 達成 _セ 評価	総合 _セ 評価	改善方策		
4	自ら考え学ぶ生徒の育成と基礎学力の定着	★	継続	①授業改善を図り、基礎基本の学力を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な授業づくり研修会を実施する。(導入, ねらい, 主発問, 振り返り)(各学年3回以上) 帯タイム(スキルタイム)で、漢字・ことば・計算問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語, 算数の単元テストの通過率を, 90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善を意識した実践的な授業づくり研修は, 14回実施し, 学級平均1.8回。 帯タイムは, 週単位で計画的にできた。 単元テスト通過率は, 国語86.3%, 算数86.7% 平均86.5%であった。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 今後も, 学びづくり案検討, 模擬授業, 授業後の協議を行い, 成果と課題を共通認識し, 授業力の向上を図る。 単元テストで通過率が低かった問題については, 帯タイムでも反復練習をする。 考えたことを条件付けや順序立てて書かせる活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な授業づくり研修は, 23回実施し, 学級平均2.9回。 帯タイムは週単位で計画的にできた。 単元テスト通過率は, 国語84.4%, 算数86.6%, 平均85.5%であった。 	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 実践的な授業づくり研修の成果と課題の共有はできたが, 取組み後の交流が十分でなかったため, 月末や学期末の暮会で交流する。 帯タイムは次年度も週単位で計画的に実施し, 徹底する。 相手の考えに反応しながら聞く等, 他者と関わり合うために, 目的や課題を明確にした協働的な学習の場面を設定する。
				②家庭学習の習慣を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習がんばり週間を実施する。(年5回) 家庭学習の手引, 自主勉強のすすめ, がんばりカードの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 設定時間以上家庭学習する児童を95%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習がんばり週間は, 3回実施。(1学期2回, 2学期1回) 設定時間以上家庭学習を行った児童は, 88.8%であった。 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 手本となるノートを掲示し, 自主学習に対する意欲付けを行う。 計画表を帰りの会で振り返り, 目標達成の見通しを持たせ 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習がんばり週間は, 5回実施。(1学期2回, 2学期2回, 3学期1回) 設定時間以上家庭学習を行った児童は, 90.8%であった。 	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 次の学年の自主勉強ノートを見せることで, 次年度への意欲付けを行う。 設定時間に到達していない児童への声かけと保護者連携を確

						アップに取り組んだ。(5/6学級)		を検証する。	ール投げの記録が伸びた児童55.0%、県平均を超えた児童64.3% (前回54.2%)となった。				認する。		
4	授業力の向上	★	継続	自ら考え学ぶ授業を創造する。	<ul style="list-style-type: none"> つけたい力を明確にした授業実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、単元計画を立て(重点単元)授業実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、学力調査等の分析をもとに重点単元を設定し、授業実践を行った。(現在まで100%) 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究ノートの作成と子どもの意見をつなぐ主体的な学びを意識した、発問・指示の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、学力調査等の分析をもとに重点単元を設定し、授業実践および、今後に向けての交流を行った。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究ノートの作成と子どもの意見をつなぐ主体的な学びを意識した、発問・指示の工夫を継続して行った。
4	地域貢献できる児童の育成		継続	地域とつながる教育活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に地域と関わるができる児童にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加(一人2回以上で95%以上) 各学年、地域教材、地域人材を活用した実践を行う。(年1回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期の地域行事への参加1回以上は99.4%であった。 地域教材、地域人材を活用した学年は、8学級中2学級であった。 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の地域行事を紹介し、1回以上参加させる。 各学年カリキュラムマップに沿って、地域教材、地域人材を活用した実践を行う。 6学級については、3学期末までに実施予定 	<ul style="list-style-type: none"> 年間で地域行事に2回以上参加の児童は、99.4%であった。 全学年、カリキュラムマップにそって、地域教材、地域人材を活用した。 	4	4	5	<ul style="list-style-type: none"> 地域教材、地域人材を活用した計画を次年度のカリキュラムマップに書き込み、実施する。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。